



令和6年 11月27日

岩倉市議会

議長 関戸郁文 様

堀江 珠恵

全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡 視察報告書

このことについて、下記のとおり受講しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日            令和6年10月9日（水）～10日（木）
- 2 研修先            トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）
- 3 復命事項  
    別紙のとおり

# 全国市議会議長会研究フォーラム in 盛岡

## 視察報告書

### 1 日目：パネルディスカッション

#### 「地方議会の課題と主権者教育」

|          |                              |        |
|----------|------------------------------|--------|
| コーディネーター | 静岡大学人文社会科学部法学科教授             | 井柳 美紀  |
| パネリスト    | 法政大学法学部教授                    | 土山 希美枝 |
|          | 一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事 | 越智 大貴  |
|          | 読売新聞社東京本社教育ネットワーク事務局         | 渡辺 嘉久  |
|          | 盛岡市議会議長                      | 遠藤 政幸  |

### 2 日目：課題討議

#### 「主権者教育の取組報告」

|          |                     |       |
|----------|---------------------|-------|
| コーディネーター | 東北大学大学院情報科学研究科准教授   | 河村 和徳 |
| 事例報告者    | 伊那市議会議長             | 白鳥 敏明 |
|          | 四日市市議会議員（第 8 3 代議長） | 諸岡 寛  |
|          | 山鹿市議会議長             | 服部 香代 |

### パネルディスカッション

#### 「地方議会の課題と主権者教育」

##### 【所感】

コーディネーター井柳氏の講義から、今の地方議会の課題は「変化」にあるということであった。

パネリストが実際に行っている主権者教育を聞くと、若者は「政治に関心がない」から選挙に行かないというよりも「どうせ変わらない」から選挙に行かないということ。しかし、社会のために役に立ちたいと思っている。こういった若者の声を生かすためにはどうしたらいいのか？を議会は考えないといけない。

高校生たちから上がった「自転車の停止線が欲しい」という意見を受けて議会がそれを承認し実現した際に政治的な関心が顕著な高まりを見せたという報告があった。他のパネリストもこの経験を補強する形で、「変化」または「変化を予感させること」がとりわけ地方議会においては大切であるという議論がなされた。

「主権者教育」に関しては、教育の現場で取り扱うことが難しかったが、H27 年に政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動等について文科省より通知がされたことに

より、生の政治を取り扱うようになった。しかし、ここに議会が主体となつて行ふ考え方はおかしく、教育機関との連携の中でできることがあるという指摘もあった。ただ、投票率をあげようとする教育は危険を孕んでいると提言があった。「選挙にいこう！」というメッセージではなく、「選挙に行くのはなぜか？」という視点で生徒に考えさせたいという話であった。また、もめることを良しとしない世の中であること、そうではなく、受け入れられないこともあることもきちんと伝えることも大事であるということであった。

また、教科書などでの知識しかなく、この知識には限界がある。年代と立場で意見は違う。限られた資源の中でどうするのかを生徒と考える、地域として考えることを議論していくことで、政治で変えられると思った子は選挙にいくということであった。

また今回のことで、議員の役割や本質の大切さ、議員同士で意見を交わし合い、納得した中で導いていくことが必要で、そのためには、自ら学び続けていくことが、そしてその姿勢が必要だと感じた。

## 課題討論

### 「主権者教育の取組報告」

#### 【所感】

3つの異なる取り組み報告事例を学ぶ機会となった。

- ① 伊那市議会は、なぜ主権者教育に取り組んだのか？H30年の市議会議員選挙が無投票となったことを機に危機感を抱き、「魅力ある議会づくり検討会」を立ち上げた。議会に関心を高めるための方策として「若い世代、特に高校生に議会への関心を高めてもらうために、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換等の企画を決定」したそうである。市内の高校全てをまわり、意見交換会やグループ懇談をして、定例会一般質問を傍聴してもらうなどの取組を行った。意見交換会に出席した高校生より請願が提出され、可決された。また高校生からは「市についてよく知ることができた」「将来政治家になりたいと思った」などの意見があがった。
- ② 四日市市議会は、議会改革をしても、投票率は上がらなかったことから、正副議長立候補者による公約で、「ワイ！ワイ！GIKAI」が始まった。その取り組みは出前意見交換会である。地域の小中学校、高校へ取り組みをしている。また、「よっかいち市議会だより #こども号」という子ども向けの市議会だよりの発行を行ったり、SNSを運営したりして広がっている。今後の取組として話し合いのテーマを自由にして、各種事業団体、労働組合など制限を設けずに幅広い対象との交流を目指そうとしている。
- ③ 山鹿市議会は、議員のなりて不足の問題から始まる。それを解消するため小学校での主権者教育を行うことになった。「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」という絵本を教材として投票を行うことで、街の運営が違うことを体験。それにより、選挙は生活に密着するんだということが子どもたちにも伝わった。

これらの事例報告を聞き、「自ら考える力」を育むこと、地域を我がごとと捉えることは主

権者教育と相性がいいと感じた。小学生のうちから、自分の住んでいる地域の課題やどうすることで、自分の街が暮らしやすい街になるかを考えてもらえる機会となり、それにより、地域愛が生まれていくと感じた。今後は、教えるではなく、学び合う場として主権者教育が広がっていけば、やがて地域の一員として役に立ちたいという若者が、政治を志し、次世代へ引き継がれていくのではないか。大変いい学びとなった。